

様式第 3 号

会 議 録(案)

会 議 名 (付属機関等名)		川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第 2 回 A 部会	
事 務 局 (担当課)		総合政策部 参画協働課	
開 催 日 時		令和元年 7 月 30 日(木) 午後 6 時 00 分から午後 7 時 40 分	
開 催 場 所		川西市役所 7 階 大会議室	
出 席 者	委 員	藤本真里(部会長)、加門文男、乾美由紀、久保圭志、田中真、 名木田絢子、西村牧子、三善知子	
	そ の 他		
	事 務 局	総合政策部 副部長 総合政策部参画協働課 課長、 同課主任 2 名	
傍聴の可否		可	傍聴者数 1人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第		1 開 会 2 議 事 (1) A 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが 取り組めていない人を巻き込んでいくには」 3 閉 会	

1 開 会

1回目の振り返り

○藤本部長

前は、やる気があるが取り組めていない人の気持ちや周囲の環境について議論した。

(出た意見については、第1回の会議録を参照)

今回は、課題に対する解決策について、組織に関わってもらう仕掛けについて、話していきたい。

2 議 事

(1)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

(各委員の意見)

- ・ 仕掛けを作る際に、地域団体や NPO など組織ごとや世代別に考えてはどうか。
- ・ 事業の主催が知られておらず、参加者に事業を提供しているだけでは、運営はしんどいと思う。主催側が自分達の存在や連絡先を丁寧に発信していると、活動もうまくいっているように思う。
- ・ 自治会やコミュニティは、毎年同じことを繰り返す中で、自分達を発信することを疎かにしがちだ。行事の際に、主催者情報(団体概要や目的、求めている人材など)を示してはどうか。
- ・ 明石には、 というガイドブックがある。どの地域でも話し合われていて、形になっているのに多くの人知らない、読んでいない。今回の報告書も読み物ではなく、漫画や子どもが読んで親に話せるようなくらいのものがいいのでは。
- ・ コミュニティや地域の行事では、昔のやり方や流れが固定化してしまっている。
- ・ やるのもやめるのも自由、出来ることを出来るときにする、若い世代の意見の言える環境でイベントが出来た際は、企画から参加すると大変だが、やりがいは大きい。
- ・ お金や知識をサポートして、若者に全部任せてしまうイベントがあってもいいのでは。

- ・ コミュニティの行事はいつまでに何をするかは全部決まっている。行事が多すぎて決まったことを決まった流れでやらないと間に合わないので、変化を受け入れられない。
- ・ フリーで気軽に参加できる組織を作る。そこで出てきた意見を取り入れ、そこで生まれた関係を育てていくことが大切だ。会議を欠席してもよい、趣味の話や世間話も出来るような風土。その考えを受け入れる側(年長者)が持てるかどうかにかかっている。
- ・ 行事の参加者の声を拾いそれを実現することで、柔軟性をアピールするのはどうか。
- ・ 社会福祉協議会のボランティア活動は、希望者と受け入れ側のコーディネートが機能しているようだが、地域はそういったコーディネートが上手く機能していない。そういった情報を入手できていない。
- ・ コミュニティの年間行事が決まっているなら、関わっていない人にもオープンにすれば、実はそこまで大変でないと感じるのでは。
- ・ 地域一括交付金で補助金は乱立していないが、コミュニティ組織が同じなので、事業の整理は進んでいない。コミュニティの予算は前例踏襲だから、イベントを続けられても大きなことはできていない。コミュニティ内の部会ごとに予算のウェイトのかけ方を変えられない。
- ・ 選択肢の多い制度だが、組織を動かしていく体力、変えていく風土がコミュニティにはないと思う。14あるいずれのコミュニティは、同じようなことしかできていない。核となるイベントは据え置いて、それ以外に新しいことをやっていかないといけない。
- ・ 地域別計画はあるが、お題目だけで血の通った計画ではないと思う。コミュニティのメンバーでも存在を知らないし、理解できていない。
- ・ コミュニティの中で新しい課題にチャレンジする事業を提案できればいいと思う。こういったことも一つの仕掛けである。
- ・ 若い世代で営利事業をやりたい人は多くいる。しかし、場所がないので、空き家を活用しているが、公共施設や地域の施設を活用できればいいと思う。
- ・ パレット川西は女性の企業を応援しているが、起業されると営利目的となるので使用できない。

- ・ コミュニティ活動の地道に大変なことを仕事にしてはどうだろうか。
- ・ 有償ボランティアという考え方はあるが、地域づくり一括交付金の観点からも運営側が報酬として金銭をもらうことには、抵抗がある。一方、若い世代にはその抵抗がないようで、ギャップがある。お金が入ると揉め事のもとにもなるが、労働への何らかの対価は必要である。
- ・ その地域の方が仕事としてよるのがややこしいなら、起業や委託にしてはどうか。
- ・ 生活のために仕事をしていると地域活動への参加は難しい。地域の方に支えられているのはわかっているので将来返そうと思っているが、中にはその活動を当たり前と捉えている人もいる。
- ・ 学生などに向けて、コミュニティの存在を知ってもらう取り組みが必要である。
- ・ 子どもを切っ掛けに仕掛けをつくることは有効だと思う。おじいちゃん、おばあちゃんと離れて暮らす子は多いので、地域の年配の方との交流(昔遊びなど)は有効だ。
- ・ 子どもから親世代の交流につながり、そこで自身の課題や悩みの解決につながれば、引っ掛かってうれしい仕掛けだと思う。
- ・ コミュニティ組織にその解決を求めるならば、まずは地道に小さなところから活動することが大切である。その活動が育ってきたときに受け入れることができる組織であることも重要である。そうでないと新しい活動や人は育ってこない。ただし、組織がお金や人手をかけて活動する際には会議や組織へのフィードバックが必要になる。
- ・ 子どもが小学校を卒業するまでが、コミュニティとの距離が一番近いと思う。そのため、高校生や大学生に興味を持ってもらったり引き込んだりしていくことが大切だと思う。子どもが大きくなり、親も仕事に出ていけるようになると一層地域との距離が遠くなる。親も子ども地域に目が向かなくなってくる。
- ・ 中学生以上になると部活単位で声をかければ、顧問の引率等の調整がつけば、地域への関わりが作れる。
- ・ 福井県鯖江市の JK 課も高校生と市の課題を結び付けるいい取り組みだと思う。
- ・ 高校も地域に近付いてきている。地域学習や部活動の発表等で地域との関わりが生ま

れてきている。

(次回以降について)

○事務局

今回の部会は、9月24日(火)午後6時から、市役所4階庁議室にて実施予定。

中間発表の全体会なので、発表のやり方を決めていただきたい。各部会の持ち時間は、30分程度を予定。また、10月以降の部会の日程も決めていただきたい。

○委員の決定内容

中間発表は、藤本部会長が中心に概要を発表し、久保委員と西村委員が補足を行う。

また、今後の部会は、10月24日(木)と11月19(火)、時間はいずれも18時から行う。

3 閉 会